



国際ロータリー第2610地区 南砺ロータリークラブ
クラブ会報

なんと

NO. 2088



URL <http://www.nanto-rc.jp>

E-mail office@nanto-rc.jp

例会日/火曜日 12:30点鐘 例会場/金沢信用金庫福光支店4階 ◆事務局/富山県南砺市福光7336-4 ふくみつ光房内 ☎ 0763-53-1333 FAX 53-1334

撮影
写真同好会
南部
勉会員



合掌
集落
(白川村)

第2148回例会 平成23年10月18日(火)曇

◆点鐘 12:00 司会 税光信作SAA

◆ソング「それでこそロータリー」

◆会長の時間 松井洋司会長

「安全と水はタダ」は日本では常識。しかし世界では、とんでもない非常識です。私達、海外へ旅行に行っても一般水道水は直接飲めないのが普通。有償のペットボトル水が一般的です。この話題は、東京都副知事の猪瀬直樹氏の談話からです。「愛のない生活はあっても、水のない生活はない」。又、東日本大震災でも、命をつなぐライフライン、その中でも最必要品が“水”です。被災者の皆様が声をそろえて訴えておられました。

日本の水浄化技術、インフラ技術は世界一と言われていいます。水資源、そのものが良質である事に加え、積み重ねたノウハウは世界戦略として打って出るべき、ビジネスチャンスを含んでいると考えられます。21世紀は水が重要な資源となるのです。WHO基準では、水道水が飲めるのは193ヶ国のうちわずか11ヶ国、日本の場合濾過技術も5段階、最終工程は、オゾン使用だそうです。配管インフラの漏水率は3%、ロンドン等先進国は10%~20%、途上国では40~60%は当りまえ、その内には盗水も相当あるそう。日本の料金徴収は99.9%等々。日本の持つ水に関するノウハウは世界に冠たるものです。今後世界へ打って出るべき「水ビジネス」は最重要課題のひとつ。私達、極く当り前に使用している水、今一度そのありがたさを再確認をしたいものです。

◆幹事報告 吉田 勉幹事

- ①2014-2015年度 ガバナー・ノミネー候補の告知について 永田義邦君(ながたよしくに) 高岡RC
職業分類:健康診断業務
- ②インターアクトクラブ海外研修実施についての案内
・期日:平成24年3月21日~3月27日
・行先:オーストラリア
- ③河北RCより幾多郎講座開催日変更のご案内
・日時 11/9(水)→11/16(水)に変更

◆出席報告 古瀬喜八郎委員長

会員数	10月18日出席率	10月4日の修正
51	70.53% (欠15)	82.69% (欠9メーク3)

メーキャップ:岡部一輝君、桶谷篤生君、中田 修君、

◆委員会報告

◇親睦活動

木村伊徳委員長

白川どぶろく祭に参加するため、例会終了後 12:45頃出発して城端は13:00頃寄ります。白川飯島神社15:00でドブロクを戴き 城山館 卓話 夜は寒いので防寒具が必要。

◆ニコニコBOX

丹羽 武委員長

松井君 本日、白川どぶろく祭り、楽しみです。丹羽君 白川どぶろくまつりのニコニコBOX受付ます。

河合映君 年に一度の最大の行事、自坊(等覚寺)の報恩講を10月24日25日の両日勤めます。今が準備の為何かとあわただしい時ですが、法要は勤めなくてはならないものです。

東 君 出席できてホッとしております。

井沢君 孫が結婚しました。

石崎君 どぶろくへかあちゃんも連れて行きます。皆さんよろしく願います。



本日のプログラム 10月25日(火) 第2149回
卓話

船藤幸生会員担当

次回の予定 11月1日(火) 第2150回
R財団フォーラム

渡邊秀一R財団委員長担当

卓話

世界遺産「荻町合掌造り集落」 観光案内の会 上出重一氏



荻町合掌造り集落が世界遺産として登録されるまでの経緯は、昭和20年代から30年代にかけて発電用ダムが作られ始めた頃より、荻町では公民館活動の中で青年団を中心に合掌造りの保存運動が芽生えていた。

40年代になり高度経済成長の時代になり古いものを壊して新しいものを造る世相の中、集団離村や改築などによって合掌造りの家屋がどんどん減っていくのを見て、かつての青年団員が一軒一軒を回って保存を説得して歩いた。

昭和46年には「荻町集落の自然環境を守る会の結成」と共に、合掌造りなどを「売らない・貸さない・こわさない」を3原則とする「住民憲章」を策定した。茅葺き作業の労力の貸し借りの「結」が受け継がれてきたが、そのための費用を工面するため2、3棟の合掌造りで簡易民宿を営んで何とかやってきた。

昭和51年には国選定「重要伝統的建造物群保存地区」に秋田県角館・長野県妻籠などと共に全国7箇所が選定された。参考として現在は90箇所余りが選定されている。そして火災から集落を守るため午前10時ごろ、夕方、夜の火の番まわり、そして深夜12時に集落全体を2人で1時間かけてまわる大回りなど一日4回の巡回を続けている。また2億3～4000万円で防災施設の整備を進めた。春と秋に消防の訓練があり、あるときその様子が新聞の写真コンクールで最優秀賞になり写真撮影のため大勢の人が押しかけたが、守っていることが観光に結びついているのであって観光のためにやっているのではない。観光のためにやっているのは冬のライトアップだけである。

平成4年日本政府はユネスコの世界遺産に加盟して、暫定リストに全国で10箇所が登録され白川郷の合掌集落も候補となった。村では平成5年に資料を整備して申請しようとしたが五箇山からも一緒に申請したいとの申し出により、京都より遅れて7年に登録された。

世界遺産は登録されても永久ではなく5年ごとにモニタリングを受けて、登録時と大きく状況に変化があれば剥奪されることも有りうる。登録されて15年になるが前回のモニタリングでは人よりも車のほうが多いとの指摘があり住民の理解を得て対策に取り組んできたが、今回はどんな指摘を受けるかドキドキしている。

観光客は平成7年に70万人だったものが登録後の8年には100万人を越えた。しかし観光客はテーマパークと勘違いし民家に入り込んだりといろいろ苦勞もあった。去年は160万人が来たが今年は震災の影響でたいへん落ち込んでおり特に春先は海外からたくさんのキャンセルがあった。今はどぶろく祭りで賑わっているが、どぶろくについては全国で権利を持っているのは43の神社で白川では15,000ℓでその中でも荻町は5,900ℓで日本一であり、2日間の祭りで全部飲んでしまった。

現在世界では936件の登録(日本は自然遺産4件、文化遺産12件の合計16件)でユネスコでは1,000件で留めたいとして審査が厳しくなっているのではないかと感じている。このように登録するのにもたいへんであるが守るのにもたいへんである。しかし、後世にしっかりと継承できるように守っていきたい。



〈今回の会報〉
担当 山田 勉

